

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	機能的解剖学 Functional Anatomy	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福田 智
						実務経験	○
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日3限目

【授業の学習内容】 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する
 機能的解剖学は解剖学と運動学を中心とした授業となる。
 運動指導をするうえで解剖学と運動学は基本となる教科となる。
 解剖学では筋肉・腱・骨・関節を把握し、運動学では日常生活・スポーツ場面での動作・姿勢の説明ができるようになる。

* 実務者経験: 医療の臨床現場で27年間、理学療法をする。
 手術見学、医師とのカンファレンスにて機能的解剖学を学ぶ。

【到達目標】
 目標①全身の筋肉、腱、骨、関節などの名称や部位を説明できる。
 目標②筋肉の働きを日常生活・スポーツ場面で説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	筋肉と骨との役割が説明できる
2回目	(目標①②) 足周囲の解剖と運動について説明できる
3回目	(目標①②) 膝周囲の解剖と運動について説明できる
4回目	(目標①②) 股周囲の解剖と運動について説明できる
5回目	(目標①②) 骨盤帯の解剖と運動について説明できる
6回目	(目標①②) 肩甲帯の解剖と運動について説明できる
7回目	(目標①②) 肩周囲の解剖と運動について説明できる
8回目	(目標①②) 肘周囲の解剖と運動について説明できる
9回目	(目標①②) 手周囲の解剖と運動について説明できる
10回目	(目標①②) 体幹前面の解剖と運動について説明できる
11回目	(目標①②) 体幹後面の解剖と運動について説明できる
12回目	(目標①②) 頸部の解剖と運動について説明できる
13回目	まとめ 全身の解剖と運動について説明できる
14回目	筆記試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	主な骨・筋肉の解剖学と、動作・姿勢に繋がる運動学について予習が必要です。
評価方法	各部位にて運動指導に繋がるように、筋肉・腱の名称と働きを把握する。骨・関節・靭帯などの名称・部位を把握する。 テスト評価100%
受講生への メッセージ	運動指導をするうえで基本となる機能的解剖学は、1つ1つ地道に覚える事が大切です。

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書: ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ辞典・ぜんぶわかる骨の名前としくみ事典(成美堂出版)
 参考書: 教科書で分かりにくい部位を参考資料として、毎回配布

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツプログラミング	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古野透
	Sports Programming	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	コース共通					開講区分	前期
					2	曜日・時限	木曜日2限目

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 健康運動実践指導者の資格合格を目指して取り組む。
 また、現場でも必要な考え方なので、その理論を身につけ活用できるようにする。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導。
 また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

【到達目標】

目標①: 各項目の理論を理解し、説明できる
 目標②: 現場での活用方法を身につける
 目標③: 健康運動実践指導者の資格合格

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション、授業説明
2回目	健康づくりのための身体活動基準2013、健康づくりのための身体活動指針(アクティブガイド)
3回目	健康づくりのためのトレーニングの原則
4回目	健康づくりのための運動プログラムの作成上のポイント
5回目	健康づくりと運動プログラム作成の基礎
6回目	ウォームアップとクールダウン
7回目	有酸素運動とその効果
8回目	レジスタンス運動
9回目	テーマ別プログラム作成①
10回目	テーマ別プログラム作成②
11回目	テーマ別プログラム作成③
12回目	テーマ別プログラム作成④
13回目	テスト対策
14回目	試験
15回目	回答用紙返却、解説

**準備学習
時間外学習**

- ・授業内容の復習
- ・人とのコミュニケーション能力

評価方法

- ・筆記試験(100点分)

**受講生への
メッセージ**

一般の方に運動指導するうえで必要な考え方となります。ぜひ、内容を理解して現場で活用できるようになりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
 健康運動実践指導者養成用テキスト(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ボディケア Body Care Technique	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	久保 智之
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	コース共通				2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

ボディケアは、スポーツでのピークパフォーマンス発揮に作用するフィジカルコンディショニングの1つである。ハードなトレーニングと同じだけリカバリーが必要になる。スポーツ選手に関わるトレーナーにとって、ボディケアは必須の技術であり、効果のあるテクニックを習得しなければならない。機能的解剖学で学習した筋骨格をイメージしながら、スポーツマッサージ、ストレッチを中心に実習を行う。また、スポーツ傷害のメカニズムを理解し、本授業終了時には、ボディケアの目的、方法、効果が説明できるようになる。

※実務者経験: 2004年～現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナーとして活動。
主業務は、選手のボディケア、アスレティックリハビリテーション、試合帯同。

【到達目標】

スポーツマッサージ、ストレッチを行うための基本的な知識と方法を修得する。スポーツマッサージの効果、目的、禁忌を理解し、リカバリーとして行うスポーツマッサージ、ストレッチの実習を行う。

<具体的な目標>

- ①スポーツマッサージ、ストレッチの基本手技の効果、方法が説明できる。
- ②スポーツマッサージの基本手技(軽擦法、強擦法、揉捏法、圧迫法、叩打法、震戦法)を行える。
- ③部位別のスポーツマッサージ、ストレッチを行える。

授業計画・内容	
1回目	コンディショニングとは (目標) コンディショニングの構成要素、コンディショニングの方法について説明ができる。
2回目	スポーツマッサージの基礎知識 (目標) スポーツマッサージの効果、目的、禁忌について説明ができる。
3回目	スポーツマッサージの基本手技1 (目標) スポーツマッサージの基本手技の効果、方法が説明できる。
4回目	スポーツマッサージの基本手技2 (目標) スポーツマッサージの基本手技の実習を行う。
5回目	頭部、頸部のマッサージ (目標) 頭部、頸部のスポーツマッサージの実習を行う。
6回目	肩のマッサージ (目標) 肩関節のスポーツマッサージ、モビライゼーションの実習を行う。
7回目	腰背部のマッサージ (目標) 腰背部のスポーツマッサージ、脊柱モビライゼーションの実習を行う。
8回目	殿部、大腿部のマッサージ (目標) 殿部、大腿部のスポーツマッサージ、股関節モビライゼーションの実習を行う。
9回目	下腿部、足部のマッサージ (目標) 下腿部、足部のスポーツマッサージ、膝・足関節、足部モビライゼーションの実習を行う。
10回目	上腕部、前腕部、手部のマッサージ (目標) 上腕、前腕、手部のスポーツマッサージ、肘・手関節、手部モビライゼーションの実習を行う。
11回目	症状別スポーツマッサージ (目標) 腰痛、膝痛、肘痛の対応を説明できる。
12回目	セルフマッサージ (目標) 自分自身で体のコンディションがチェックできる。
13回目	セルフストレッチ、パートナーストレッチ (目標) ストレッチの実習を行う。
14回目	前期テスト
15回目	テスト返却、解説
準備学習 時間外学習	①骨格筋の名称、位置、起始・停止の予習が必要。 ②骨の位置、名称、関節の構造の予習が必要。 ③スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期テスト(100%) 筆記
受講生への メッセージ	トップアスリートになるほど身体のメンテナンスには敏感になっており、コンディショニングはトレーニング、栄養補給と同じくらい重要なものに位置付けられています。スポーツマッサージは、ピークパフォーマンスに作用するだけでなく、疲労回復、ケガの予防など多くの効果を得られます。スポーツ現場では絶対に必要な技術です。機能的解剖学、スポーツ医学の内容も含めた授業を行います。
【使用教科書・教材・参考書】	
ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ事典 ぜんぶわかる骨の名前としくみ事典 講義資料を配布	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	フィットネスエクササイズ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平塚 泉
	fitness exercise	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	コース共通				2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日3・4限、金曜日4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 このクラスでは、スポーツクラブ(民間)で行われているエアロビックダンスエクササイズを中心に「健康・体づくり」の為に必要な運動の基本を体験してもらう。音楽に合わせて身体を動かし純粋に楽しんでもらう事により、グループ指導や将来インストラクターとしての職種に興味を持ってもらえる様な内容で行う。「エアロビックダンスエクササイズ」「レジスタンストレーニング」「ストレッチ」で指導者として必要なフィジカル面の強化・維持も図る。

1998年5月～現在(株)スポーツクラブNASでインストラクターとしてレギュラーレッスンを担当、現在はフリーランスとして活動中。

【到達目標】
 グループレッスンの特徴を感じてもらい、集団指導の楽しさを感じてもらう。
 <具体的な目標>
 目標①エクササイズの目的(健康・体づくり)を理解し、自らが効果を出せる身体づくりができる。
 目標②自らが体験した運動の効果(行動体力である柔軟性や巧緻性など)を自己判断出来るようになる。
 目標③グループレッスンの特徴や特異性を自ら感じる事ができる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)オリエンテーション(自己紹介) リズム・音楽について
2回目	(目標①)フィットネスEXの目的(健康・体づくりの運動)を理解し、他のメンバーと共有できる。
3回目	(目標①)健康づくりの運動について説明ができる (実技:ベーシックビギナー ストレッチ2)
4回目	(目標①)体力について理解とその運動の目的を確認 (実技:ビギナー① 50分 コンディショニング1)
5回目	(目標②)エアロビックダンスの特徴の確認 (実技:ビギナー② 50分 コンディショニング2)
6回目	(目標②)運動強度と変換方法を理解し実施する事が出来る (実技:ビギナー③ 50分 コンディショニング3)
7回目	(目標②)運動強度の変換方法を自らがレッスン中に行い調整できる事ができる。(実技:ロー 50分 コンディショニング4)
8回目	(目標②)骨格筋についての理解とストレッチの重要性について説明できる (実技:ロー 50分 コンディショニング5)
9回目	(目標③)実技:エアロビックダンスエクササイズ60分
10回目	(目標③)実技:エアロビックダンスエクササイズ60分
11回目	(目標③)実技:エアロビックダンスエクササイズ60分
12回目	(目標③)実技:エアロビックダンスエクササイズ60分
13回目	テスト準備(基本ステップ4種類の説明と実技テスト内容説明)
14回目	実技試験
15回目	レッスン
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:運動生理学や体力学について予習があると効果的な運動になります。 (目標②)骨格筋や解剖学等の講義の復習があると安全に授業を行う事ができます。
評価方法	ストレッチ、エアロビックダンスエクササイズ、コンディショニングの何れかの実技試験 ●実技テスト(80%) ●レポート試験(フィットネスエクササイズについて)(10%) ●授業内評価(10%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅 力:この授業では民間のフィットネスクラブではもっともニーズの高い「スタジオレッスン」を体験出来ます。先ず自身の体づくりを図り、集団で運動を音楽に合わせて行う楽しさを感じてください。週に一度一緒に汗をかいて元気に身体を動かしていきましょう。 授業計画:この授業で身に付ける「実践力」「経験値」が物が言います。その必要な技術は毎回の授業で少しずつ養う事が出来ます。体調管理に充分気をつけて欠席のない様にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
実習着着用(ジャージ可)、室内シューズ必須	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コーチング論	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	井口 大
	Coaching	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース	コース共通					開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

近年、社会構造や社会状況が年々変化し、指導者(コーチ)には多くの役割が求められるようになってきました。そうした中で、指導者にとって最も大切な役割は何でしょうか。それは一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることや、目標達成するためのサポートをする役割があります。

この授業では、日本サッカー協会公認D級ライセンス/C級ライセンスの内容をベースに授業をおこない、指導者としての基礎学が。また、1年生で学習した事をベースに指導実践では、更にプレーヤーのミスの改善方法やプレーヤーのモチベーションを上げるための言葉かけも重点を置きながら授業を進める。

実務経験:小学生から中学生までのサッカーチームトレーナーとして活躍。また、幅広いカテゴリーでのチーム指導にも携わり、チーム帯同をしてメディカルサポートからトレーニング指導、コンディショニングまで幅広く従事。県サッカー協会でのチームサポートも行っている。

【到達目標】

コーチが持たなければならない技術と知識の中で「コーチング」を講義と実技の中で修得する。特に指導実践では、「コーチとしての立ち振る舞い」や「いつミスが起こり」、「そのミスをどう改善するのか」「プレーヤーのモチベーションを高める為の言葉かけ」など、選手たちを成長させる技術・知識を含めた授業を行う。

<具体的な目標>

- ・テーマに合ったメニューの作成(誰が見ても分かりやすい指導案の作成)
- ・ルールを簡潔に説明できる。 ・自分が作った練習メニューの意図 ・いつミスが起こり、そのミスをどうやって改善するのか。
- ・狙いが明確に言える。 ・デモンストレーションを効果的に活用できる。 ・プレーヤーのモチベーションをどう高めるか。

授業計画・内容

1回目	(講義)コーチング法 ガイダンス 「1年間の振り返り」→「今後の流れ」
2回目	(講義)実技テーマのメニュー作成(4テーマ)
3回目	実技テーマ:シュートドリル(さまざまな場面から)
4回目	実技テーマ:ゴールを奪う
5回目	実技テーマ:ボールを奪う(2対2・2対1・3対2・複数対複数)
6回目	実技テーマ:ゴールを目指す
7回目	実技テーマ:ゴールを目指す(崩し)
8回目	(講義)実技テーマの振り返り・指導実践ガイダンス/指導案の作成
9回目	後期 指導実践(テスト:3名)
10回目	後期 指導実践(テスト:3名)
11回目	後期 指導実践(テスト:3名)
12回目	後期 指導実践(テスト:2名)
13回目	後期 指導実践(テスト:2名)
14回目	後期 指導実践(振り返り)
15回目	(講義)後期 総評

準備学習
時間外学習

- ・可能であれば、Jリーグや海外リーグ、日本代表戦などを観てサッカーに触れてほしい。
- ・直接スタジアムに足を運んで、試合、ウォーミングアップなど現場の雰囲気や活動を見てほしい。

評価方法

テストは、指導実践(実技)を行い評価する。

- 実技指導案の作成(5%)
- 指導実践(70%)
- 授業への取り組み(25%)

受講生への
メッセージ

- ・実技が主な為、体調を整えて出席すること。
- ・人数が13名ということもあり、欠席者が多いとトレーニングメニューの変更や指導実践に支障をきたす場合があるので、欠席しないように気を付けてください。
- ・D級コーチ、C級コーチライセンスの内容を受け指導実践など経験することで、選手へ伝える楽しさや難しさを肌で感じ、この経験は様々な競技や社会に役に立てる内容と思います。是非積極的に取り組んでほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

実技の場合:サッカーボール・マーカーコーン・ゼッケン
講義の場合:プロジェクター

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツ障害 Theory for Sports Injury	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員 実務経験	平本宏樹 ○
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日1限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>スポーツ障害の内容は、身体の部位別に大別され、更にスポーツ外傷と傷害の怪我別に分けられる。まずは、スポーツ外傷と傷害の違いを理解し、スポーツ現場で関わることが多い疾患についての理解を深める。そして、スポーツ外傷に対して、適切な救急対応と応急処置ができ、スポーツ現場でチームスタッフ・選手の命を守るスポーツ指導者を目指す。更に、スポーツ外傷・傷害の症状に応じたテーピングを選択し施行できるようになる。</p> <p>※実務者経験: 2017年4月-2018年12月、社団法人 鎮誠会 東金整形外科 リハビリテーション科 理学療法士 2019年1月-2022年12月、レノファ山口FC トップチーム フィジオセラピスト 2023年5月-現在、レノファ山口FC アカデミー フィジオセラピスト 主業務は、メディカル・アスレチックリハビリテーション、トレーナー業務全般(テーピングなど)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各部における、スポーツ外傷・傷害を理解し、その怪我に対して、適切な応急処置とテーピングが実施できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	授業のオリエンテーション、スポーツ外傷・傷害について
2回目	スポーツ外傷の救急対応と応急処置について ①開放性損傷に対する応急処置 ②非開放性損傷に対する応急処置
3回目	テーピング総論
4回目	キネシオテーピング
5回目	テーピング各論① 足部アーチ、踵部、アキレス腱に対するテーピング (25mm非伸縮 アンダーラップ 50mm伸縮 50mmEL)
6回目	テーピング各論② 足関節の基本テーピング I (アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL)
7回目	テーピング各論③ 足関節の基本テーピング II (アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 75mm伸縮 50mmEL)
8回目	テーピング各論④ 膝関節に対するテーピング (アンダーラップ 75mm伸縮)
9回目	テーピング各論⑤ 腰部、大腿部の肉離れに対するテーピング (38mm非伸縮 50mm非伸縮 50mmEL)
10回目	テーピング各論⑥ 肩関節に対するテーピング (75mm伸縮)
11回目	テーピング各論⑦ 肘、手関節、手指に対するテーピング (アンダーラップ 12mm非伸縮 25mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL)
12回目	実技・筆記テスト対策
13回目	実技テスト (アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL)
14回目	筆記テスト
15回目	筆記テスト返却、実技・筆記テスト解説
準備学習 時間外学習	①各部位の怪我に対する知識が必要 ②実技修得に向けての自主練習が必要
評価方法	実技テスト(50点) + 筆記テスト(50点)
受講生への メッセージ	スポーツに関わる仕事をするなかで、怪我の場面に遭遇し、スポーツ外傷・傷害の知識が必要となることがあります。その際に、自身を守り、身近な人の命を守るためには、正しい知識がなければなりません。スポーツ障害の授業を通して、スポーツ外傷・傷害の理解を深め、更に症状に対して適切な応急処置とテーピングができるように努めていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
アシックステーピングテキスト(ASICS Corporation)、はさみ、テーピング(授業時に配布)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツ心理学 Sports Psychology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	河津 慶太 ○
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日3限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

この授業では、トレーナーとして選手を育てるために必要となる、指導の方法論(コーチング)や、日々の練習や試合における、選手たちの心理的な問題に対処するための知識や技法(メンタルマネジメント)を学んでいく。そして、修得した知識を自ら考え応用し、実践場面で選手の心理的な状態をモニタリングし、その時の選手に必要な声掛けなどを行えるようになる。

※実務経験: 2013年4月～現在に至るまで、一般やプロなどに対する心理サポートを行っている。2017年4月以降は日本パラリンピック委員会の医科学情報サポートスタッフとして、パラリンピック日本代表選手への心理サポートを行っている。2024年度パリパラリンピック帯同予定(村外スタッフ)。

【到達目標】

スポーツ活動継続のための動機づけについての知識や、実力発揮のための基礎的なメンタルマネジメントの知識を学ぶ。目標設定や、自分の注意集中状態をモニタリングする実習などを行う。

<具体的な目標>

目標① 動機づけに関する理論、技法(自己決定理論、目標設定理論など)を説明できる

目標② 試合中の実力発揮ための理論や技法(注意集中、リラクゼーション、イメージなど)を説明できる

授業計画・内容

1回目	授業のガイダンス
2回目	目標① 動機づけの理論的な背景(自己決定理論など)
3回目	伝えるスキル向上ワーク
4回目	目標① 人間の欲求、目標設定について
5回目	目標① スポーツにおける動機づけ 動機づけを高める方法論
6回目	目標① スポーツにおける動機づけ 動機づけを高める方法論2
7回目	小テスト
8回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント タスクフォーカス解説
9回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント タスクフォーカストレーニング
10回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント リラクゼーションとサイキングアップ
11回目	目標② 実力発揮のための心理的コンディショニング
12回目	これまでのまとめ、質疑応答 小テスト
13回目	期末課題
14回目	期末試験
15回目	試験返却・評価

準備学習
時間外学習

目標①②について、この授業に関しては事例を検討していく作業が多くありますので、それぞれの授業内容に関連する自身の事例をある程度イメージしてもらいたいです。高校時代の自分のスポーツ活動に関して思い出しておいてほしいです。
また、難解な理論等については動画教材を用意していますので、各自復習などに活用すると内容の理解が進むと思います。

評価方法

- 小テスト2回(30%)
- 期末課題(30%)
- 期末テスト(40%)

受講生への
メッセージ

指導者やコーチにとって、資格試験においてはそれほど重要視されない(点数の比重が軽い)分野ではありますが、実際の現場では必ずと言っていいほどぶつかる問題です。自分自身で対処できる場合と、専門家をお願いしたほうが良い場合がありますので、最低でもその見極めをしないと選手のためになりません。
授業中に課題を設けるときの2回ありますのでその時はできるだけ休まないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

リファレンスブック

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツ栄養学	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	吉村俊亮
	Sports Nutrition					実務経験	○
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日2・3・4限目、水曜日1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

スポーツ選手にとって食事とは、一日の中の数少ない楽しみの一つである。しかし、スポーツ選手にとっての食事は、減量や増量、早期の疲労回復、パフォーマンスアップなどにも親密に関わってくる。スポーツ選手がより良い成果を上げられるように、栄養についての基礎知識を学び、人体やトレーニングとの関連などの応用についても考えられるように土台を築いていく。

実務者経験: 2012年2月～2019年12月Personal Body Management株式会社にてトレーナーとして勤務、2020年1月～現在 株式会社AND-U代表取締役、日本および海外(ドイツ・トルコ・スペイン・アメリカ・イギリス)で一般の方やアスリートのコンディショニングにおけるトレーニング・栄養サポートを行う

【到達目標】

- ・五大栄養素について説明できる
- ・エネルギー機構について説明できる
- ・授業内容目標①～③について、内容を理解して説明できる

授業計画・内容

1回目	栄養の概念について説明ができる
2回目	(目標①)消化吸収の過程と栄養素の体内動態について説明ができる
3回目	(目標①)糖質の種類と消化吸収について説明ができる
4回目	(目標②)糖質の代謝系について説明ができる
5回目	(目標②)アミノ酸の種類と代謝系について説明ができる
6回目	(目標②)たんぱく質の栄養について説明ができる
7回目	(目標②)脂質の栄養について説明ができる
8回目	(目標②)脂質の種類と代謝系について説明ができる
9回目	(目標②)エネルギー代謝について説明ができる
10回目	(目標③)脂溶性ビタミンの栄養について説明ができる
11回目	(目標③)水溶性ビタミンの栄養について説明ができる
12回目	(目標③)ミネラル(I群)の栄養について説明ができる
13回目	(目標③)ミネラルの栄養(II群)について説明ができる
14回目	期末試験
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)栄養素の消化吸収の仕組みについて復習が必要です (目標②)三大栄養素の働きについて復習が必要です (目標③)微量栄養素について復習が必要です
評価方法	試験 70点(中間50点+期末50点=100点×0.7) 授業態度 15点(減点方式、1講義につき1点) 出席点 15点(1講義につき1点) 計 100点
受講生への メッセージ	勉強は暗記する学生が多いですが、暗記すると時間の経過とともに忘れてしまいます。 暗記ではなく、理解することに努めて、一緒に勉強を楽しんでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
リファレンスブック	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	レジスタンス	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	内田 真平
	Resistance Training					実務経験	○
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日3限目

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 1年を通じて運動指導者に必要なレジスタンストレーニングのフォーム修得、指導力アップを目指す。前期は主にBIG3(ベンチプレス、デッドリフト、スクワット)のフォーム修得を目指す。演習はただやり方を覚えるのではなく、機能解剖学や運動生理学に基づいた裏付けや身体の仕組みを理解した上で実施する。基本的に2~3人のグループワークやロールプレイングを行ない、運動指導者に必要な基礎も学んでいく。毎回の演習を通じて現場で生かせる様々な理論やテクニックも合わせて紹介するので、安全で効果的なフォームを身につけ、対象部位への確に負荷をかけられるようになって欲しい。
 実務経験: 2005年より福岡市内のフィットネスクラブ施設にて運動指導を開始。パーソナルトレーナーとして10年のフリーランス活動を経て、2018年に「Fitness Support arcs」をオープン。20代から80代の様々な目的を持ったクライアントにマンツーマンで運動指導を行っている。

【到達目標】
 レジスタンストレーニングの指導に必要な基礎種目、BIG3を中心としたフォーム習得、そして指導力の向上を目指す。
 <具体的な目標>
 ①機能解剖学に基づいた正しいトレーニングフォームでの実演ができるようになる
 ②エクササイズを機能解剖学的に説明できるようになる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーシ: 自己紹介、授業の進め方、マシンの使い方、評価方法
2回目	(目標)スクワットをやってみる/トレーニングの原理原則を理解する/下肢の筋肉を学ぶ①
3回目	(目標)デッドリフトをやってみる/トレーニングの原理原則を理解する/下肢の筋肉を学ぶ②
4回目	(目標)ベンチプレスをやってみる/プログラムの基礎を理解する
5回目	(目標)8RMを設定できる/種目の分類を理解できる
6回目	(目標)6RMを設定できる/筋活動様式の種類とその活用が理解できる/筋の作用を学ぶ
7回目	(目標)5RMを設定できる/動作速度の重要性が理解できる
8回目	(目標)4RMを設定できる/代償動作に伴う危険について理解できる/上肢の筋肉を学ぶ①
9回目	(目標)3RMを設定できる/相手に合わせた補助ができる/上肢の筋肉を学ぶ②
10回目	(目標)基礎種目の演習
11回目	試験対策: (目標)BIG3がバーベルでデモンストレーションできる
12回目	基礎種目の演習、3RM測定 (目標)換算表が活用できる
13回目	前期試験
14回目	前期試験
15回目	総評
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自主トレーニング ・機能解剖学の予習・復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加率 10% ・中間試験 30% ・期末試験(BIG3のデモンストレーション) 60%
受講生への メッセージ	レジスタンストレーニングの指導は運動指導者にとって必須です。競技スポーツの現場だけでなく、リハビリなどの医療の現場やフィットネス・セルフコンディショニングなど、様々な場面で必要になってきます。知識・指導力を身につけることで身近な人の役に立てる機会もあるでしょう。実践し理解が深まることで可能性は無限に広がり、様々な職域で「付加価値」になります。演習を通じて身体の変化を体感し、指導に必要な基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:「ぜんぶわかる 筋肉の名前としくみ辞典」:成美堂出版 「JATIトレーニング指導者テキスト 実践編」:大修館書店	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コンディショニング Conditioning	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	古野 透 ○
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日1限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) スタティックストレッチやダイナミックストレッチなど基本的な理論や実技を中心に、チームなどの団体指導やパーソナル、高齢者など幅広い年齢層に対応できるスキルを身につけていく。</p> <p>※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導。 また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>目標①各ストレッチの内容を理解し、説明することができる 目標②覚えた内容を指導することができる 目標③プログラムを組むことができる</p>							
<p>授業計画・内容</p>							
1回目	オリエンテーション						
2回目	スタティックストレッチの理論						
3回目	スタティックストレッチの演習①						
4回目	スタティックストレッチの演習②						
5回目	ダイナミックストレッチの理論						
6回目	ダイナミックストレッチの演習①						
7回目	ダイナミックストレッチの演習②						
8回目	ペアストレッチの理論・演習						
9回目	プログラミング作成の理論・演習①						
10回目	プログラミング作成の理論・演習②						
11回目	指導の理論・演習①						
12回目	指導の理論・演習②						
13回目	テスト対策						
14回目	前期試験						
15回目	答案用紙返却、解説、反省						
準備学習 時間外学習	<p>目標①授業の内容を復習する 目標②教科書を読む頻度を増やす</p>						
評価方法	50問(1問2点)出題し合計100点とする。						
受講生への メッセージ	<p>JATIの資格は簡単に取得できるものではありません。日々、教科書を読み、授業の内容を復習するといった積み重ねが非常に大切となります。1年は長いようであっという間に経つので、早いうちに習慣づけるようにしましょう。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 JATIトレーニング指導者テキスト「理論編」(株式会社 大修館書店)</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	体力測定法 Physical Fitness Test	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	古野 透
	コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験 開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 体力測定は今も様々な現場で活用されており、アスリートだけでなく子どもから高齢者まで広く浸透している。その体力測定の意義や目的をまずは理解する。測定方法や評価方法についても学び、最終的にはどういった方にも的確な評価がおこなえる実践力を身につける。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導。
 また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

- 【到達目標】
- 目標①: 体力測定の意義を理解する
 - 目標②: 体力測定の方法と評価を理解する
 - 目標③: 的確な評価説明ができる実践力を身につける

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、体力の概念を理解する
2回目	測定と評価とは何かを知る
3回目	新体力テストの成り立ち・体力水準
4回目	新体力テストの実際①
5回目	新体力テストの実際②
6回目	新体力テストの実際③
7回目	新体力テストの実際④
8回目	年代別得点表と平均をもとにした評価方法
9回目	高齢者(65～79歳)に対する新体力テストの方法と注意点①
10回目	高齢者(65～79歳)に対する新体力テストの方法と注意点②
11回目	その他高齢者に対する測定項目
12回目	体組成の見方と評価
13回目	テスト対策
14回目	試験
15回目	回答用紙返却、解説
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の復習 ・人とのコミュニケーション能力
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期テスト/定期テスト 100%
受講生への メッセージ	体力測定は全年代、広範囲で行われています。特に一般の方に対する測定と評価はほとんどのトレーナーが経験します。現場で活用ができるよう興味を持って取り組んでみてください。また、JATIトレーニング指導者や健康運動実践指導者などの資格対策にも関わる大切な科目であることも覚えていてください。
【使用教科書・教材・参考書】 <ul style="list-style-type: none"> ・JATIトレーニング指導者テキスト「理論編・実践編」(株式会社 大修館書店) ・握力計、柔軟性測定機器、メジャー ・健康運動実践指導者テキスト(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団) 	

2024年度 授業概要

学 科：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	健康管理概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	市丸 直人
	Health Care Theory					実務経験	
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
					2	曜日・時限	月曜日2・3・4限目

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 中高年者や高齢者を対象とした運動指導の場合、生活習慣病の理解は不可欠である。生活習慣病の病態とその予防法に関する知識を系統立てて理解し、個々の健康状態に応じて対処できる運動指導者となれるよう質の向上を図る。健康確認票などを通して、自身の生活習慣についての関心を高めるとともに、一方通行にならないようにできるだけ運動指導現場での実例をもとに解説する。

【到達目標】
 生活習慣と疾患との関連を理解し、生活習慣病患者やその予備群に対してその危険性を回避した適切な運動指導ができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、健康管理ノートの付け方、健康・体力の定義や高齢化社会について説明できるようにする。
2回目	生活習慣病1、高血圧症、高血圧 血圧の意味、正常値と異常値、高血圧のタイプについて説明できるようにする。
3回目	生活習慣病2、糖尿病、2種類の糖尿病について説明できるようにする。
4回目	生活習慣病3、メタボリック・シンドロームについて説明できるようにする。
5回目	メンタルヘルスと心の病気について説明できるようにする。
6回目	生活習慣病などの運動療法1、健康・体力についての復習と総括、運動との関連について説明できるようにする。
7回目	生活習慣病などの運動療法2、有酸素運動との関連について説明できるようにする。
8回目	生活習慣病などの運動療法3、ウォーキングなどの軽い有酸素運動との関連について説明できるようにする。
9回目	生活習慣病などの運動療法4、筋力トレーニングなど比較的強い強度の運動との関連について説明できるようにする。
10回目	生活習慣病などの運動療法5、SAQトレーニングなどの俊敏な運動との関連について説明できるようにする。
11回目	生活習慣病などの運動療法6、1RMなど最大筋力に近い運動との関連について説明できるようにする。
12回目	生活習慣病などの運動療法7、柔軟性などの運動との関連について説明できるようにする。
13回目	これまでの復習を行なう。
14回目	試験を行なう。
15回目	試験を返却し、答え合わせを行う。授業のまとめを行なう。
準備学習 時間外学習	健康管理ノートへの記録を通して自身の生活習慣に対する関心を深める。
評価方法	筆記試験(70%)、授業内演習評価(15%)、健康ノート(15%)
受講生への メッセージ	毎週欠かさず健康ノートの記入、自分自身の日常生活を見直しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
健康運動実践指導者養成用テキスト、健康生活と運動他、授業担当者(市丸)が作成した資料等	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	土橋恵秀
コース	コース共通	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	
						開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 身体運動の仕組みについて、力学的な観点から学修していく。力学、と言われてしまうと自信のない生徒も多いと思われる。その点を考慮し、なるべく平易でわかりやすい授業を心がけるつもりではある。ただし、基礎的なことは覚えてもらえない、ということもあるので学生自身の努力もまた必要である。
 単に力学的な観点だけでなく、身体運動という点から新たな知識を取り入れてもらうことも予定している。

【到達目標】

1. 力学の基礎概念を理解し、並進運動と回転運動のメカニズムを説明することができるようになる。
2. 人体に作用する力とモーメントを算出し、そのはたらきを説明することができるようになる。
3. 力学原理に基づき、身体運動を説明できるようになる。また、動作改善や障害予防と関連づけ、説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	バイオメカニクスとは(イントロダクション)
2回目	ニュートンの法則 1
3回目	ニュートンの法則 2
4回目	ニュートンの法則 3
5回目	微分・積分
6回目	運動量の保存
7回目	前半の復習
8回目	回転運動の運動学 1
9回目	回転運動の運動学 2
10回目	回転運動のメカニズム 1
11回目	回転運動のメカニズム 2
12回目	後半復習
13回目	実験1
14回目	実験2
15回目	データ分析
準備学習 時間外学習	解剖に関する基礎知識の復習、原理原則についての理解をする必要があるので、予習・復習をしっかりと行ってください。
評価方法	レポート30% 出席50% 授業態度20%
受講生への メッセージ	バイオメカニクスと聞くだけで苦手、と思う学生もいると思います。現代のスポーツ科学はどんどん発展していく中、この知識を持たずしてスポーツ界に関わることはもはやできる環境にはありません。 なるべく平易に、興味を持ってもらう様に授業を展開します。大事なことは、興味を持つこと、積極的に関わろうとすること。自分で考えることをあきらめないで、粘り強く取り組んでいくうちに、様々な発見があると思います。実験を経験することにより、最先端の研究がどのようなものなのか、実感をしていただけることを望んでいます。ディスカッションを多くし、相互的に理解できるような授業を展開します。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業毎、資料配布	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コーチング Coaching	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員 実務経験	井口 大
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

近年、社会構造や社会状況が年々変化し、指導者(コーチ)には多くの役割が求められるようになってきました。そうした中で、指導者にとって最も大切な役割は何でしょうか。それは一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることや、目標達成するためのサポートをする役割があります。また、楽しくプレーすることは、上達にもつながりますし、困難を乗り越えることにもつながります。この授業では、日本サッカー協会公認D級ライセンス/ C級ライセンスの内容をベースに授業をおこない、指導者としての基礎学ぶ。

【到達目標】

コーチが持たなければならない技術と知識の中で「コーチング」を講義と実技の中で修得する。特に指導実践では、「コーチとしての立ち振る舞い」や「いつミスが起こり」、「そのミスをどう改善するのか」など、選手たちを成長させる技術・知識を含めた授業を行う。

<具体的な目標>

- ・テーマに合ったメニューの作成(誰が見ても分かりやすい指導案の作成)、ルールを簡潔に説明できる。
- ・自分が作った練習メニューの意図、狙いが明確に言える、デモンストレーションを効果的に活用できる。

授業計画・内容	
1回目	(講義)ガイダンス(D級ライセンスより、サッカー協会の取り組み、ライセンス制度、育成ビジョンなど。)
2回目	(講義)D級ライセンスより(コーチの仕事・コーチングの目的・女子サッカー・発育発達と一貫指導)
3回目	実技テーマ:ドリル (ボールマスタリー・シュート・パス&コントロール・フェイント)
4回目	実技テーマ:対面 (1対1・2対2・複数対複数)
5回目	実技テーマ:守備 (ボールを奪う・ゴールを守る)
6回目	実技テーマ:ポゼッション(ゴールを奪う・ゴールを目指す)
7回目	実技テーマ:さまざまなゲーム
8回目	実技テーマの振り返り
9回目	後期 指導実践ガイダンス/指導案の作成
10回目	後期 指導実践
11回目	後期 指導実践
12回目	後期 指導実践
13回目	後期 指導実践
14回目	後期 指導実践(振り返り)
15回目	(講義)後期 総評
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、Jリーグや海外リーグ、日本代表戦などを観てサッカーに触れてほしい。 ・Jリーグが開幕したので、直接スタジアムに足を運んで、試合、ウォーミングアップなど現場の雰囲気や活動を見てほしい。
評価方法	テストは、指導実践(実技)を行い評価する。 ○実技指導案の作成(10%) ○指導実践(70%) ○授業への取り組み(20%)
受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実技が主なので、体調を整えて出席すること。 ・人数が16名ということもあり、一人でも多く欠席者がいると、トレーニングメニューの変更や指導実践に支障をきたす場合があるので、欠席しないように気を付けてください。 ・D級コーチ、C級コーチライセンスの内容を受け指導実践など経験することで、選手へ伝える楽しさや難しさを肌で感じ、この経験は様々な競技や社会に役に立っている内容だと思います。是非積極的に取り組んでほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	
実技の場合:サッカーボール・マーカーコーン・ゼッケン 講義の場合:プロジェクター	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コーチング論 Instruction and Coaching	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	井口 大
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
リファレンスブックを基に、グッドコーチに求められる資質能力を習得する。その主な部分として、「人間力」と称する「思考・判断(スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学等)」と「態度・行動」に関する内容を理解し、本授業終了時にはグッドコーチに求められる資質能力の理解を得られるようになる。

【到達目標】

- ①コーチングの意味やコーチに求められる役割を理解する。
- ②対他者力・対自己力を内容を理解し磨いていく。
- ③スポーツの意義と価値の理解をする。
- ④ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチングの理解。

授業計画・内容	
1回目	コーチング論 ガイダンス (コーチのGOODイメージ/BADイメージ、コーチの理想像)
2回目	目標①コーチングとコーチを定義する。グッドプレーヤーを育てるグッドコーチ
3回目	目標①コーチングの目的としての4Cs。プレーヤーズセンタードなコーチング。
4回目	目標①4つのアプローチについて
5回目	目標①日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割。コーチの果たすべき役割。安全なスポーツ環境の構築(予防)と問題発生時の対処法。
6回目	目標②コーチング文脈。専門的知識。
7回目	目標②対他者の知識。対自己の知識。
8回目	目標②コミュニケーションスキル。
9回目	目標②ファシリテーションスキル。プレゼンテーションスキル。
10回目	目標②コーチの学び。その他の対他者スキル。
11回目	目標②さまざまな思考法や伝達方法。コーチのセルフマネジメント。
12回目	目標③女性コーチの活躍とスポーツを通じた女性の社会進出。
13回目	目標④ハイパフォーマンススポーツとは何か。ハイパフォーマンススポーツの本質 ～良き競い合い～
14回目	まとめ①
15回目	総評
準備学習 時間外学習	・リファレンスブックを一通り目を通してください。
評価方法	筆記テストを前期1回実施する。 ●筆記テスト(70%) ●授業の取り組み(30%) ※割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	リファレンスブックを基にコーチング論の講義を行います。 授業では、アクティブラーニングやファシリテーション、ワークショップなどを取り入れて、意見の共有・課題の提出、意見交換などを行い学生みんなでコーチの資質能力を高めていきたいと思いますので、オープンマインドで取り組んで下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 ・リファレンスブック ※スクリーン/プロジェクターを使用	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツ生理学 Exercise Physiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	古賀五月
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日2限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>スポーツ生理学は運動を行うことで身体にどのような変化が生ずるのか、その現象としくみを理解する学問である。他のスポーツ系の授業の基礎とも言える。この授業を理解することによって、運動指導者としてクライアントへなぜひとは運動をしなければならないのか、運動を行うことでどのようなことが身体の中で起こり、様々な変化を遂げていくのか科学的根拠に基づいて指導ができるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>運動指導者に必要なスポーツ生理学の基本的な知識を修得、科学的根拠に基づいて説明が出来る。</p> <p>目標①骨格筋についての詳しい説明(構造・特徴・収縮様式など)が出来る。</p> <p>目標②エネルギー供給系についての説明が出来る。</p> <p>目標③骨格筋と神経系の関わりについて説明が出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	(目標①)骨格筋の構造についての説明が出来る。
3回目	(目標①)筋収縮の仕組みについての説明が出来る。
4回目	(目標①)筋線維の種類とその特徴について説明が出来る。
5回目	(目標①)筋の収縮様式についての説明が出来る。
6回目	(目標①)筋力を決める要因についての説明が出来る。
7回目	中間試験
8回目	(目標②)アデノシン三リン酸についての説明が出来る。
9回目	(目標②)無酸素性機構についての説明が出来る。
10回目	(目標②)有酸素性機構についての説明が出来る。
11回目	(目標③)神経系の構造について説明が出来る。
12回目	(目標③)自律神経系について説明ができる。
13回目	(目標③)神経系の働きと役割、および運動との関連について説明が出来る。
14回目	期末試験
15回目	返却・回答解説
準備学習 時間外学習	各目標毎、およそ2~4回にわたっての関連した授業になるため予習と復習が必要です。また骨格筋やトレーニングについての話がありますので個人でトレーニングを行うことでより授業の理解度が深まります。
評価方法	2回の定期試験によって知識の到達評価を行う。(中間試験50% 期末試験50%)
受講生への メッセージ	現場で運動指導者として働いていくために知識と技術が必要となります。特に知識は科学的根拠に基づく説明が出来るクライアントへの説得力が上がります。ぜひ苦手を意識せず、積極的に取り組んでほしいと思っております。そのためにも、どの授業もそうですが体調管理に気をつけ、欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
リファレンスブック(公益財団法人 日本スポーツ協会) 健康生活と運動(SISビジョン株式会社)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	進路指導 Career Guidance	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	各担任
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日2限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 2年間の学校生活について時系列で考え、1年生の前期ではクラス内で目標を立て、主体性と協調性を身につけるために学校・学科イベントに積極的に参加します。また、就職活動・資格取得に向けての準備を行うために、自らの進路について企業研究などを考える時間をつくります。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校生活がスタートし、ルールを守り責任感を身につけることができる ・学園祭のブースを出店し、主体性と協調性を身につけることができる ・職業をイメージするために自分で働く場所の情報を調べるなど、就職に対して興味関心をもつ ・考える、聞く、発信することができるような安全な環境づくりを一人ひとりが取り組むことができる 							

授業計画・内容	
1回目	学校のルールを知り、2年間の学校生活をイメージすることが出来る(学生便覧)
2回目	個人の目標、クラスの目標を明確にし、前期の到達目標に対して行動指針を立てることが出来る
3回目	キャリアサポートアンケートの実施(個別面談に活用)、ITリテラシーについて学び正しいインターネットの活用ができる
4回目	自己分析、目的意識の明確化にし、自分の現状を知ることが出来る
5回目	学園祭の準備(主体性と協調性を身につける)
6回目	学園祭の準備②(主体性と協調性を身につける)
7回目	学園祭の準備③(主体性と協調性を身につける)
8回目	学園祭の振り返り、学生生活アンケート、スポーツ業界について知る①フィットネスクラブについて理解することが出来る
9回目	スポーツ業界について知る②パーソナルトレーニングジムについて理解することが出来る
10回目	スポーツ業界について知る③チーム・ビジネスについて理解することが出来る
11回目	自己分析①目的意識の明確化にし、自分の現状を知る
12回目	自己分析②内容を評価、行動指針のフィードバックが出来る
13回目	企業研究①(自分が目指す業種について、企業を調べる)
14回目	企業研究②(自分が目指す業種について、業務内容を調べる)
15回目	前期の目標に対して、自己評価を行い、後期に向けての目標設定を立てることが出来る
準備学習 時間外学習	スポーツ業界のホームページやSNSサイトを見て、予習を行う
評価方法	・授業内評価(100%) ⇒出欠、授業態度、提出物で評価を行う
受講生への メッセージ	スポーツ業界で働いていく上で、主体性・協調性を身につけ、考えることや傾聴すること、自ら発信することが出来るようにならないといけません。 そのためにクラス内で力を合わせて取り組む必要があります。 遅刻、欠席がないように受講してください
【使用教科書・教材・参考書】	
適宜授業内で資料配布	

2024年度 授業概要

学 科：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コミュニケーションスキル	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	最上源
	communication skill					実務経験	
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限目

【授業の学習内容】

コミュニケーションの基礎を身につけるために、コミュニケーションスキルアップ検定の内容を勉強し、ご横隔を目指す。過去問題や練習問題を使い授業を進める。

【到達目標】

コミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・コミュニケーションの定義と領域
2回目	コミュニケーションの種類・正しい挨拶の基本
3回目	基本的対話スキル ①プロセス。聞くの基本、質問の仕方
4回目	” ②話す基本、気持ちや考え方の交換
5回目	自己表現スキル ①挨拶、自己紹介、相手との関係を深める
6回目	” ②上手な頼み方、断り方、自己主張の仕方
7回目	” ③仕事の基本、話をわかりやすく伝える方法、交渉、説得
8回目	” ④プレゼンテーション、アンガーマネジメント
9回目	社会的スキル ①敬語
10回目	社会的スキル ②電話対応、接客マナー
11回目	社会的スキル ③訪問、謝罪 ④文書 過去問題
12回目	過去問題
13回目	過去問題
14回目	テスト
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	日頃からビジネススキルを意識しましょう
評価方法	筆記テスト100%
受講生への メッセージ	全員合格目指して頑張りましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
コミュニケーションスキルアップ検定(滋慶教育科学研究所)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	コンピュータ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口 恵美里
	Literacy for Information					実務経験	
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日4限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>社会人として、また、企業において必要とされる人材となる為にはコンピュータの基本操作や実践に役立つ書類作成能力・データ処理能力・プレゼンテーション能力が求められます。この授業ではコンピュータの基本的な操作やWordの基本文書の作成・PowerPointのスライドの作成や効果的なプレゼンテーションスキルを習得していきます。また、SNS等のインターネットの世界において予期せず犯罪被害者及び加害者になることの無いようにITリテラシーを習得し、かつ基本的なビジネスメールの受信スキルを習得していきます。</p> <p>※1996年4月～2024年現在まで企業及び専門学校等にてIT関連の講義を行う。 指導ソフト: Word・Excel・Power Point・Illustrator・Photoshop 他</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>目標①コンピュータの基本操作ができる。 目標②Wordで基本文書作成ができる。 目標③PowerPointでスライド作成や効果的なプレゼンテーションができる。 目標④インターネットやSNSについての知識やマナーを理解し、実践できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	Windowsの基本操作・フォルダ作成・USBの名前変更・データのコピー&削除ができる。						
2回目	Wordの基本操作・日本語入力の変換修正・記号変換・手書き入力等ができる。						
3回目	Wordの基本操作・文書の入力及び編集ができる。						
4回目	定型文書の作成及び編集ができる。基礎編 ①						
5回目	定型文書の作成及び編集ができる。実践編 ①						
6回目	定型文書の作成及び編集ができる。基礎編 ②						
7回目	定型文書の作成及び編集ができる。実践編 ②						
8回目	表現力のある文書作成ができる。基礎編						
9回目	表現力のある文書作成ができる。実践編						
10回目	簡単な表作成ができる。基礎編						
11回目	複雑な表作成ができる。実践編						
12回目	表を含む定型文書作成ができる。①						
13回目	表を含む定型文書作成ができる。②						
14回目	前期評価試験						
15回目	試験解説						
準備学習 時間外学習	授業進度は初心者でも理解できるように進めていきますので特に準備学習は必要ありませんが、テキスト・USBメモリ等を忘れると授業進度に遅れが生じますので忘れ物が無いようにしてください。						
評価方法	実技試験による評価 80% 授業内評価(理解度・授業内作成課題・授業態度等) 20% 割合で成績評価を行う。						
受講生への メッセージ	卒業後、どのような業界に進んでも社会人としてPCスキルは必要とされます。 在学中にPCスキルを身に付け、将来皆さんが望む業界へ進んだ時に身に付けた技能を役立ててください。 演習の授業形式になりますので、欠席をしないようにしてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>滋慶文化学園指定テキスト使用 【COMPUTER BASIC Word】</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Bレベル) Global communication B	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1限目・金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 日常生活での情報・説明やまとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明・用件を伝えることができる。</p>							
<p>【到達目標】 相手に質問をする。また質問に答えることができる。自己紹介をして、知り合いになることができる。 親戚へのメールを読む、また書くことができる。 自分の持ち物について述べるができる。ネット広告を読む、また書くことができる。 助動詞を用いて、自分の町について話すことができる。 ビル内の道順を尋ねる。また教えることができる。求職申し込みを読む、申込書を書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	[WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	「間接疑問文」を使って、人に質問をする。また質問に答える練習をする
3回目	自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」・前期発表と運動する内容
6回目	現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	欲しいものについての広告を書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」・前期発表と運動する内容
11回目	冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	[would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	建物内の道案内の場面の会話を練習する
14回目	求職求人に対して志望動機を書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の人気な場所についてプレゼンをする」・前期発表と運動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 3	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Cレベル) Global communication C	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1限目・金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。</p>							
<p>【到達目標】 知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。 毎日していることについて話すことができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。 今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す
2回目	「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す
3回目	挨拶をして会話を始める練習をする、興味や驚きを表す表現を練習する
4回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなEメールを読む、書く
5回目	Time to Speak:スピーキング評価:ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」・前期発表と連動する内容
6回目	[Wh-question]を練習する。一般動詞の疑問文、否定文を使って、習慣・ルーティンについて質問する、返答する
7回目	指示代名詞を使って、仕事や勉強をする空間について話す・質問する
8回目	意思疎通に問題があったことを説明する、繰り返しを求める表現を練習する
9回目	ポッドキャストについての意見を読む、書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」・前期発表と連動する内容
11回目	「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す
12回目	「現在進行形」「現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す
13回目	知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する
14回目	サービスや会社に対するコメントを読む、書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 2	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Dレベル) Global communication D	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前期
				曜日・時限	月曜日1限目・金曜日3限目		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>個人的な情報について尋ねる、また述べるができる。個人的な経歴等のプロフィールを読む、また書くことができる。 友達や家族について表現することができる。友達や家族の画像にスレッドを入れたり、書かれている情報を読みとることができる。 家や家具について話すことができる。ホームシェアについてのメールを読む、書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	be 動詞(am, are)を使って自己紹介(国籍や出身)する、または出身地を尋ねる会話を練習する
2回目	疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に伝え、また相手の情報を聞く
3回目	ホテルにチェックインする際の会話を練習する
4回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く
5回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と連動する内容
6回目	be動詞を使って、家族構成について話す
7回目	be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する
8回目	年齢や誕生日について聞く、話す
9回目	写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と連動する内容
11回目	名詞の所有を表す[s] と[s]を使って、自分の家について話す
12回目	[it is]を使って、家具について話す
13回目	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する
14回目	ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「新居の家具を選ぶ」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 1	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	水中運動指導法	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	勝田 寿徳・池形 成信
	Teaching Method of Aquabics	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	
コース	コース共通					開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
有酸素運動の1つである、水泳・水中運動で幅広い年齢層に対応できる運動指導の実践方法を知るために、水の特性、運動の種類、効果、安全性を学習していきます。また、健康運動実践指導者を取得するための必修科目としても学習します。

【到達目標】

- ・水泳、水中運動とはどんな種類のものがあるのかを知り、理解する
- ・水泳、水中運動にはどんな特性・リスクがあるのかを知り、説明が出来る
- ・水泳、水中運動にはどんな効果があるのかを知り、説明が出来る
- ・(泳法)姿勢の作り方や脱力のスキルを身につける
- ・(水中運動)水中ウォーキングの種類を実践し、指導の幅を増やす
- ・(水中運動)音楽に合わせたアクアビクスを実践し、指導の幅を増やす

授業計画・内容

1回目	プールの利用方法(取り決められたルールなど)について理解することができる
2回目	水の特性、効果について理解し、説明することができる(小テストの実施)
3回目	水泳、水中運動の種類と強度設定、傷害リスクを理解し、説明することができる(小テストの実施)
4回目	(水泳)各泳法の姿勢の作り方、脱力方法を実践し、身につけることができる①
5回目	(水泳)各泳法の姿勢の作り方、脱力方法を実践し、身につけることができる②
6回目	(水泳)心拍数の測定、強度のコントロールを身につけ長距離の泳法を身につけることができる
7回目	(水中運動)水中ウォーキングでの強度の設定や効果を体感し、指導内容をまとめ説明することができる
8回目	(水中運動)音楽に合わせたアクアビクスでの強度の設定や効果を体感し、指導内容をまとめ説明することができる
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	健康運動実践指導者テキスト内にある、水泳・水中エクササイズについて予習しておくこと
評価方法	・小テスト(20%) ・レポート【3枚】(70%) ・授業内評価(10%):出欠等
受講生への メッセージ	魅力:指導者として、安全で効果的で楽しく継続できるような運動指導を行うためには、専門領域を広げ、幅広い年齢層へ指導が出来ることが重要です。そのためには、偏ったトレーニングに目を向けるのではなく、環境設定・強度設定にも目を向けお客様に提案できる幅を広げていきましょう。資格取得にも必要な科目となるためしっかりと受講しましょう。 授業計画:プールに入って演習を行います。体調管理には十分に気をつけて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

健康運動実践指導者養成用テキスト(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ゲーム分析	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	吉満 寛
	Game Analysis					実務経験	○
コース	プロスポーツAIトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日3限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

GAME分析の歴史や歩みを知り、sportsanalystが使用する最新機器やソフトについて学び、また日本を代表するデータ分析会社やアナリストなどを業界について理解する。本講義の最終目標としては、GPS計測ができ、スタッツを編集し、分析を通して数値から読み解けるものを、1つでも修得できるようになる。analystとは何かについて、自身で説明ができるようになる。

実務経験:2020年10月から現在に至るまで、東福岡ラグビー部でGPS計測とデータ分析を担当する。

【到達目標】

1. 分析の歴史と歩みを知る。
2. 最新の機器、アナライズの動向を理解する。
3. KNOW(GPS)の計測ができる
4. 分析を繰り返し実践し、経験値を積む
5. アナライズとは何かを説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	スポーツ×データ可能性①
2回目	スポーツ×データ可能性②
3回目	GPSトラッキングについて
4回目	GPS使用方法
5回目	GPS計測とスタッツ
6回目	実践計測(学内)～ログアップロード
7回目	データ取得～統計タブ確認～基本データ分析
8回目	実践計測(選手)データ準備～取得①
9回目	分析演習とディスカッション①
10回目	実践計測(選手)データ準備～取得②
11回目	分析演習とディスカッション②
12回目	分析演習とディスカッション③
13回目	分析演習とディスカッション④
14回目	テスト
15回目	フィードバック

準備学習
時間外学習

前回の学びに関する復習、現場での経験を授業に活かしていきましょう。

評価方法

レポート提出 100%

受講生への
メッセージ

現場活動に積極的に参加していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

学校にある機材を使用します。必要に応じて、講義資料配布。

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ゲーム分析2	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	藤井 透
	Game Analysis II	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	
コース	プロスポーツAIトレーナー			開講区分	前期		
						曜日・時限	木曜日4限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>映像撮影、キャプチャー、管理、分析共有の知識とオペレーションを習得、アナリストに求められるスキルを習得、分析基礎知識を学ぶ。アナリストに必要な知識と技能を学び、競技現場でチームをサポートできる実践力を培う。ダートフィッシュソフトウェアの分析ソフトウェアを通じて、スポーツアナリストテックスを理解する。単元ごとに簡単な振り返り理解度チェックを実施します。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>アナリストに必要な知識と技能を学び、競技現場でチームをサポートできる実践力を培う。ダートフィッシュソフトウェアの分析ソフトウェアを通じて、スポーツアナリストテックスを理解する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	スポーツパフォーマンス分析入門
2回目	ライブキャプチャーについて学ぶ
3回目	映像の管理、再生、共有
4回目	動作分析のアプローチ 基礎
5回目	動作分析のアプローチ 基礎比較
6回目	動作分析のアプローチ データの表示と評価
7回目	高度な比較映像の分析
8回目	高度な軌跡映像の分析
9回目	ゲーム分析のアプローチ 基礎 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析
10回目	タギングパネルの作成と設定 イベントデータをスマートデータへ表示
11回目	ゲーム分析結果のプレゼンテーション、モニターージュを学ぶ
12回目	ゲーム分析の実践
13回目	3Dアナライザーの設定、実践
14回目	分析プレゼンテーション作成
15回目	成果発表とテスト
準備学習 時間外学習	単元ごとの理解が必要なため、しっかり復習をしていきましょう。
評価方法	授業内評価100%
受講生への メッセージ	パソコン、スマートフォンを使用しますが、重要な要点はメモをとること。
【使用教科書・教材・参考書】	
myDartfishProS、PC・スマートフォンを使用	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	スポーツビジネス	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	黒田 次郎
	Sports Business	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	
コース	スポーツマネジメントテクノロジー			開講区分	2	曜日・時限	前期 木曜日1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

現代社会においてオリンピック、サッカーワールドカップ、プロ野球・Jリーグ、Bリーグなどスポーツは多くの人々の中で広く親しまれ、また市場規模においても、スポーツ産業は世界各国で成長産業として進化が期待されています。
東京オリンピック・パラリンピック開催後、スポーツが大きな産業として経済活性化への期待が高まる中、スポーツマネジメントとはどのような概念・定義を持ち、スポーツの場面でどのような機能と役割を果たすことができるのか。
本科目ではスポーツ産業界で活躍するために必須となる基礎知識や能力を修得します。

【到達目標】

- ・スポーツマネジメントの基礎的な概略を知る
- ・スポーツ産業の歴史、動向、市場規模を知る
- ・スポーツマーケティング、スポンサーシップ、スポーツブランドの定義とその特性を知る
- ・スポーツイベントのプロデュース方法を知る
- ・プロスポーツビジネスの概略とスポーツの経済効果を知る

授業計画・内容

1回目	授業全体の構成、進め方、評価についての説明 オリエンテーション
2回目	スポーツマネジメントの概念、定義、スポーツ産業の概念と市場規模について
3回目	スポーツ産業の過去・現在・未来について
4回目	スポーツマーケティングの構造について
5回目	スポーツイベントのマネジメント:オリンピック、サッカーW杯、地域活性化イベント等の事例紹介
6回目	スポーツ組織のマネジメント:各競技団体の組織の概略及び意思決定プロセス
7回目	スポーツクラブのマネジメント:総合型地域クラブ、民間スポーツクラブに関する課題
8回目	第1回目から7回目までの復習
9回目	スポーツブランドについて:各メーカーのプロモーション戦略、事例紹介
10回目	スポンサーシップについて:歴史的変遷と現状、オリンピックスポンサー等の事例紹介
11回目	日本のプロスポーツについて:プロスポーツの分類、スポーツ選手の社会貢献活動、CSRについて
12回目	日本のプロスポーツについて:ドラフト制度、プロスポーツ選手の生涯賃金とセカンドキャリアについて
13回目	アメリカ、ヨーロッパのプロスポーツビジネスについて:4大スポーツと欧州の比較
14回目	期末テスト
15回目	テストの解説と総復習

準備学習
時間外学習

日頃のスポーツ情報に対して注視すること。配布された資料は復習の参考とすること。

評価方法

期末テスト80%、演習20%

受講生への
メッセージ

本科目を受講する学生は、スポーツ産業にかかわる様々な事柄に問題意識を持ち、積極的に自ら学ぶ習慣を身につけてほしい。また、昨今、スポーツ界を見渡すと国境ボーダレスになっています。このような状況下、国際感覚を磨き、スポーツ産業界でリーダーになりたいという学生を希望する。

【使用教科書・教材・参考書】

黒田次郎、石塚大輔、萩原悟一、秋山大輔編:スポーツビジネス概論5、叢文社

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	進路指導	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各担任
	Career Guidance					実務経験	
コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
					2	曜日・時限	木曜日1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 就職活動、業界研修、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路について考える。業界の特性に応じた能力および社会人としての基盤能力を学び、身につけていく。
 また現場実習・外部活動を通して、必要な能力を学び、身につけていきます。講義を通して、効果検証も行っていきます。

【到達目標】

- ・校外での活動を通して、社会人として自覚を持った行動ができる
- ・進路について明確にする
- ・現場や企業が求める能力を身につけ、就職活動に向けた準備をする

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを行う。2学年としての取り組み、現場実習・外部活動に向けた準備について
2回目	現場実習・外部活動を行う上での注意点
3回目	職業観について、目指す業界における人物像について考える
4回目	専門職業に向けた準備①社会人基礎力について
5回目	専門職業に向けた準備②前を踏み出す力Actionについて考える、グループディスカッション
6回目	専門職業に向けた準備③考え抜くカンニングについて考える、グループディスカッション
7回目	専門職業に向けた準備④チームで働くカチームワークについて考える、グループディスカッション
8回目	専門職業に向けた準備⑤自分たちが考える社会人基礎力についてまとめ・グループ発表
9回目	SNSについて① 各種SNSにおいてビジネスでの活用方法と利用するにあたっての注意点を知る
10回目	SNSについて② 各種SNSにおいてアプリを活用とした、業界のトレンドと活動について学ぶ
11回目	ビジネスマナーについて、実習参加にあたって挨拶や身だしなみ、立ち居振る舞いについて学ぶ
12回目	事例検討①実践現場での報告、グループワーク
13回目	事例検討②実践現場での課題点・問題点、グループワーク
14回目	事例検討③実践現場での課題点・問題点における解決方法、グループワーク
15回目	まとめ、事例検討発表
準備学習 時間外学習	現場実習・外部活動において、常に問題意識を持ち取り組んでいく 日頃の生活から社会人に向けた行動・言動を心がけて行動する
評価方法	出席状況、授業態度、提出物による総合100%で評価を行う
受講生への メッセージ	現場実習・外部活動へ懸命に取り組む、先を見据えた行動をしていきましょう また、何をすることも考えて行動をすること、相手のことを考えて意識高く取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】
 適宜、授業内で資料を配布

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	デザイン	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	島村紀博	
	Desing					実務経験	○	
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期	
							曜日・時限	火曜日1・2限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 広報活動等に必要、宣材の制作等をイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、応用としてイラストレーター、フォトショップを使用して広告や名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。</p>								
<p>【到達目標】 イラストレーター、フォトショップを使用して広告や名刺のデータを制作して印刷物として入稿できるまでになる。</p>								

授業計画・内容	
1回目	photoshopのツールの紹介と、photoshopの基本的な使い方の説明、自分の写真を加工してphotoshopの機能を知る。
2回目	Photoshopの初歩の使い方をサンプル画像を使用して、ツールボックスの説明も兼ねて使用してみる。
3回目	Photoshopの合成課題、画像解像度の理解とペンツールを使用しての合成の基礎を覚える、野菜のパーツを切り抜いて組み合わせサンプル通りに合成する。
4回目	photoshopの合成課題レイヤーを理解する、レイヤーの描画モード、レイヤースタイル等レイヤーの機能を使用して合成を行う、又グラデーションの作り方を覚える。
5回目	photoshopの色塗り、ブラシの使い方やレイヤーの描画モード、選択範囲を使用して下絵を元に乗算を使用して着色していく、又カスタムブラシの作り方も覚える。
6回目	photoshopのスタンプツール、スタンプツールを使用して画像の画像の修正作業を行う。修正の際に必要な至みツールや変形ツールを覚える。
7回目	photoshopの影付け、用意した写真に影をつける、パスを引いて選択範囲を読み込み変形ツールを使用して、リアルなガウスのぼかしを使用して影付けを覚える。
8回目	photoshop合成と色合わせ、見本に合わせて、今までの技術を総合的に使用して合成と色合わせを行う、色合わせは調整レイヤーを使用して行う。
9回目	photoshopの合成課題、前回の課題に引き続き色合わせと合成課題、今回は更に複雑な合成に挑戦する。その際に効率のよい合成技術を身に付ける。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	photoshop商品にロゴマークを入れる、変形ツールや選択範囲を上手く使い商品写真にロゴマークを入れ、商品の色を色相と彩度を利用して変更する。
12回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
13回目	広告、ポスターの制作、印刷に入校時に必要なトリムマークや製作時に必要なガイドライン等を作成する。
14回目	広告、ポスターの制作、デザインを考えて文字の配置の基礎を学ぶ。
15回目	完成した名刺のプリントアウトを校正して提出
準備学習 時間外学習	PCを用いての授業になりますので、基礎はもちろん応用できる知識と技術を身につけられるよう予習・復習をしっかりと行いましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 20% ■受講態度 30% ■各課題事に点数を付けた平均で評価いたします。50%
受講生への メッセージ	広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。また制作する際にはショートカットを使用して作業効率上げるために忘れないようにしっかりとノートを取るようにしましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>PC教室での授業(PC内にソフトが内蔵されています)</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Bレベル) Global communication B	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1限目・金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 日常生活での情報・説明やまとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明・用件を伝えることができる。</p>							
<p>【到達目標】 相手に質問をする。また質問に答えることができる。自己紹介をし、知り合いになることができる。 親戚へのメールを読む、また書くことができる。 自分の持ち物について述べる。ネット広告を読む、また書くことができる。 助動詞を用いて、自分の町について話すことができる。 ビル内の道順を尋ねる。また教えることができる。求職申し込みを読む、申込書を書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	[WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	「間接疑問文」を使って、人に質問をする。また質問に答える練習をする
3回目	自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」・前期発表と連動する内容
6回目	現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	欲しいものについての広告を書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」・前期発表と連動する内容
11回目	冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	[would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	建物内の道案内の場面での会話を練習する
14回目	求職求人に対して志望動機を書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の人気な場所についてプレゼンをする」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 3	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Cレベル) Global communication C	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日1限目・金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。</p>							
<p>【到達目標】 知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。 毎日していることについて話すことができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。 今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す
2回目	「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す
3回目	挨拶をして会話を始める練習をする、興味や驚きを表す表現を練習する
4回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなEメールを読む、書く
5回目	Time to Speak:スピーキング評価:ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」・前期発表と連動する内容
6回目	[Wh-question]を練習する。一般動詞の疑問文、否定文を使って、習慣・ルーティンについて質問する、返答する
7回目	指示代名詞を使って、仕事や勉強をする空間について話す・質問する
8回目	意思疎通に問題があったことを説明する、繰り返しを求める表現を練習する
9回目	ポッドキャストについての意見を読む、書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」・前期発表と連動する内容
11回目	「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す
12回目	「現在進行形」「現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す
13回目	知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する
14回目	サービスや会社に対するコメントを読む、書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>EVOLVE 2</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Dレベル) Global communication D	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	ILC
コース	コース共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1限目・金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>個人的な情報について尋ねる、また述べるができる。個人的な経歴等のプロフィールを読む、また書くことができる。 友達や家族について表現することができる。友達や家族の画像にスレッドを入れたり、書かれている情報を読みとることができる。 家や家具について話すことができる。ホームシェアについてのメールを読む、書くことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	be 動詞(am, are)を使って自己紹介(国籍や出身)する、または出身地を尋ねる会話を練習する
2回目	疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に伝え、また相手の情報を聞く
3回目	ホテルにチェックインする際の会話を練習する
4回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く
5回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と連動する内容
6回目	be動詞を使って、家族構成について話す
7回目	be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する
8回目	年齢や誕生日について聞く、話す
9回目	写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く
10回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と連動する内容
11回目	名詞の所有を表す[s]と[e]を使って、自分の家について話す
12回目	[it is]を使って、家具について話す
13回目	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する
14回目	ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く
15回目	Time to Speak:スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「新居の家具を選ぶ」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	英語力をしっかり高めてきましょう
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>EVOLVE 1</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツ科学科

科目名 (英)	進級制作	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	各講師(各担任)
	Promotion Work					実務経験	
コース	コース共通	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日4限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 2年次の集大成として、ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表を行う。

【到達目標】

- ・ゼミ活動を通して学んだことが分かりやすくまとめられている
- ・研究の内容を今後につながるものにする
- ・聴衆者にしっかりと伝わるように発表の練習を行う

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
3回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
4回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
5回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
6回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
7回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
8回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
9回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
10回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
11回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
12回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
13回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
14回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
15回目	研究した成果について、発表を行う。
準備学習 時間外学習	発表に向けて準備をしていきましょう。
評価方法	発表のレポート提出により評価を行う。
受講生への メッセージ	1年間のゼミ活動の成果を発表します。2年生の集大成として全員で取り組みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

特になし

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	健康運動実践指導者基礎講座 Training for Fitness Instructor Basic Lecture	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 実務経験	勝田 寿徳
コース	資格選択希望者、コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期(後期)
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 教科書に基づき、健実筆記試験の合格を目標に進めていきます。また、グループ指導の実演能力と指導能力を身につけるだけでなく、解剖学や生理学、トレーニング科学、心理学、現在の健康づくりの実際などの専門的な基礎知識も学び、「安全で効果的で楽しい」指導に活かせるように授業を進めていきます。</p> <p>※実務者経験:15年間、健康運動実践指導者の資格を所有し、フィットネスクラブ・公共施設の運動指導に携わる</p>							
<p>【到達目標】 健康運動実践指導者筆記試験の合格</p>							

授業計画・内容	
1回目	1章 健康づくり施策概論の内容を押さえ、日本の健康づくりに対しての取り組みについて理解することが出来る テキストp.3~15
2回目	2章 運動生理学の内容を復習し、問題に対して必要な用語・説明を理解することができる テキストp.19~38
3回目	3章 機能解剖とバイオメカニクスの内容を復習し、問題に対して必要な用語・説明を理解することができる テキストp.41~53
4回目	4章 栄養摂取と運動の内容を復習し、問題に対して必要な用語・説明を理解することができる テキストp.57~67
5回目	5章 体力の測定と評価を復習し、問題に対して必要な用語・説明を理解することができる テキストp.71~96
6回目	6章 健康づくりと運動プログラム 健康体力づくりに対してのプログラムの考え方について学び、理解することが出来る p.99~116
7回目	7章 運動指導の心理学・社会学的基礎 心理学的用語を復習し、説明することが出来る p.119~126
8回目	8章 健康づくり運動の実際 ウォームアップ・クールダウン・ストレッチの指導ポイントを掴み、説明することが出来る p.128~150
9回目	8章 健康づくり運動の実際 ウォーキング・ジョギング・エアロビックダンスエクササイズ・水泳、水中運動・レジスタンスの指導ポイントを掴み、説明することが出来る p.151~201
10回目	9章 運動障害と予防・応急処置 運動中止の判断基準、各種障害、救急処置について復習し、説明することが出来る p.205~226
11回目	1章~3章の復習
12回目	4章~6章の復習
13回目	7章~9章の復習
14回目	試験
15回目	筆記検定試験対策
準備学習 時間外学習	・筆記試験対策講座(荒川先生)の際、問題に対してのポイントをマークすると思います。 すべての書き込みなどはテキストにするようにしましょう!
評価方法	・健実筆記対策の際に行う筆記模擬試験にて評価する(90%) ・授業内評価→出欠(10%) 上記の内容で成績評価を行います。
受講生への メッセージ	魅力:指導者として、安全で効果的で楽しく継続できるような運動指導を行う為には、専門知識を身につけ、より分かりやすく説明ができるようになることが重要です。その為にも、実技だけでなく筆記対策もしっかりと取り組み、資格取得ができるように基礎知識から学びましょう。 授業計画:資格対策の授業です。体調管理には十分に気をつけて欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:健康運動実践指導者養成用テキスト(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	トレーニング指導者基礎講座 Basic Seminar for JATI-ATI	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	古野 透
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	プロスポーツAIトレーナー(資格選択希望者)				2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日3限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
資格合格を大前提に、教科書の内容を中心に理解を深め身につける。小テストも定期的に行い授業の理解度を把握するとともに予習・復習の習慣をつけることも目標とする。また卒業後、即戦力で現場で使える知識を養っていく。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導。
また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

【到達目標】

目標①教科書の内容を理解し、説明することができる
目標②模擬問題(10問)を行い、7問以上正解できる
目標③例年出席率が悪いので、きちんと出席し授業を受けることができる

授業計画・内容

1回目	体力学総論、機能解剖(上肢)
2回目	機能解剖(体幹・下肢)
3回目	模擬問題を活用した演習
4回目	バイオメカニクス①
5回目	バイオメカニクス②
6回目	模擬問題を活用した演習
7回目	運動生理学
8回目	模擬問題を活用した演習
9回目	運動と栄養
10回目	模擬問題を活用した演習
11回目	運動と医学①
12回目	運動と医学②、運動指導の科学
13回目	テスト対策
14回目	前期試験
15回目	答案用紙返却、解説、反省

準備学習
時間外学習

目標①授業の内容を復習する
目標②教科書を読む頻度を増やす

評価方法

50問(1問2点)出題し合計100点とする。

受講生への
メッセージ

JATIの資格は簡単に取得できるものではありません。日々、教科書を読み、授業の内容を復習するといった積み重ねが非常に大切となります。1年は長いようであるという間に経つので、早いうちに習慣づけるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
JATIトレーニング指導者テキスト「理論編」(株式会社 大修館書店)

2024年度 授業概要

学 科：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	トレーニング科学 Training Science	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片井 忠
	コース	コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	実務経験
						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日4限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) トレーナーとして必要なトレーニングの知識を得て、プログラムの作成、トレーニングを含めた指導方法を学ぶ。</p>							
<p>【到達目標】 これまで学んだトレーニングに関する知識に加え、様々なクライアントのニーズに応じてプログラムの作成、指導が出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	骨格筋系、神経系、内分泌と運動
2回目	トレーニング計画の立案、超回復について
3回目	筋力トレーニングのプログラム作成
4回目	パワー向上トレーニングのプログラム作成
5回目	持久力トレーニングの理論とプログラム作成①
6回目	持久力トレーニングの理論とプログラム作成②
7回目	スピード向上トレーニングのプログラム作成/柔軟性向上トレーニング及び、ウォームアップとクールダウン
8回目	特別な対象のためのプログラム作成①
9回目	特別な対象のためのプログラム作成②
10回目	スポーツ栄養学①
11回目	スポーツ栄養学②
12回目	トレーニング効果の測定と評価/運動指導の科学
13回目	対策週
14回目	筆記テスト
15回目	返却週
準備学習 時間外学習	機能解剖学やスポーツ生理学、スポーツ栄養学などを復習して授業に臨んでください。
評価方法	筆記テスト100%(授業態度・出席も鑑みて評価に含みます。)
受講生への メッセージ	トレーニングについて学び、実際に現場に出た時にトレーナーとして活躍出来るようになります。
【使用教科書・教材・参考書】	
JATIトレーニング指導者テキスト「実践編」「理論編」(大修館書店)	

2024年度 授業概要

学 科：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	NSCA資格対策講座 Exam Preparation for NSCA	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 実務経験	堀尾 祐史
コース	資格選択希望者、コース共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>NSCA-CPTの資格合格を目標に授業を進めていく。NSCA-CPTの内容では、トレーナーの基礎知識(解剖学、運動生理学、バイオメカニクス)とさまざまなクライアントへの指導を想定した実践テクニック(エクササイズテクニック、プログラムデザイン)が大半を占める。本授業では、実践経験の少ない学生に対して、エクササイズテクニックやプログラムデザインの内容を軸に構成していく。毎回の授業で試験内容を想定した問題を解き、学生たちの学習状況を把握する。問題を解く中で読解力を磨き、NSCAのエッセンスに慣れることでトレーナーとしての基礎知識を養う。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①NSCA-CPTの資格取得 ②NSCA-CPTのテキストをベースにトレーナーとしての基礎知識を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	資格試験について(教科書の内容、試験内容の確認)、エクササイズサイエンスの理解度調査
2回目	エクササイズサイエンス①(テキスト第1-3章の内容)筋の構造、心肺系とガス交換、生体エネルギー機構
3回目	エクササイズサイエンス②(テキスト第4-6章の内容)バイオメカニクス、レジスタンストレーニング、有酸素性持久カトレーニングへの適応
4回目	エクササイズサイエンス理解度テスト、初回面談と評価①(テキスト第9章の内容)クライアントの面談と健康評価
5回目	初回面談と評価②(テキスト第10-11章の内容)体力評価の選択と管理、体力テスト法と評価基準
6回目	コンディショニング①(テキスト第12章の内容)柔軟性とストレッチ
7回目	コンディショニング②(テキスト第7-8章の内容)栄養学と心理学
8回目	エクササイズテクニック①(テキスト第12章の内容)自体重、バランスボールでのエクササイズ
9回目	エクササイズテクニック②(テキスト第13章の内容)バーベル、ダンベルでのエクササイズテクニック、補助のテクニック
10回目	エクササイズテクニック③(テキスト第17章)プライオメトリクスとスピードトレーニング
11回目	心臓血管系のトレーニング(テキスト第14章)心臓血管系のトレーニングバリエーション
12回目	プログラムデザイン①(テキスト第15章)レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
13回目	プログラムデザイン②(テキスト第16章)有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン
14回目	特定のクライアント向けの指導①(テキスト第18章)前青年期の子ども、高齢者、妊婦のクライアント
15回目	特定のクライアント向けの指導②(テキスト第19章)栄養と代謝に問題を抱えるクライアント
準備学習 時間外学習	受験対策問題を配布
評価方法	①(小テスト)エクササイズサイエンス理解度テスト(2回目の点数が前期評価30%) ②各章毎のレポート提出(70%)
受講生への メッセージ	資格取得がトレーナーとしてのゴールではありません。 一方で、NSCA-CPTの資格内容は、将来トレーナーとして活躍する上で必要な知識が幅広く詰まった内容です。まずは目先の目標として、資格取得を目指して勉強していきましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>・NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版(特定非営利法人 NSCAジャパン)</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ゲーム分析5・6 (Game Analytics V・VI)	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	佐藤 文彦
コース	プロスポーツAIトレーナーコース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	実務経験	
						開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日4・5限目
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>セイバーメトリクスの入門的内容として、成立から現代までの発展の歴史を学びます。セイバーメトリクスというと、OPSやFIP、wOBA等々の近年になって開発された新しい指標をイメージする人が多いです。これらもセイバーメトリクスの成果であり産物ではありますが、授業ではこうした指標が生まれた過程を理解することに重点を置きます。</p> <p>また、「こういうことが新たに分かった」というセイバーメトリクスの知見をただ覚えるのではなく、根拠となったデータを見て理解できるようになることを目標とします。株式会社DELTA公式サイト「1point02」において、コラム等を執筆し、メールマガジン「1.02 Weekly Report」で今週のデータ分析を担当する。また、「プロ野球を統計学と客観分析で考える デルタ・ベースボールレポート」にも執筆者として参加</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>セイバーメトリクス</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①セイバーメトリクスの成立から現代までの発展の過程を理解する</p> <p>目標②セイバーメトリクスの発展によってもたらされた知見を覚えるのではなく、根拠となるデータを見てその意味を理解できるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション: セイバーメトリクスを学ぶ
2回目	野球の一般原理①: ピタゴラス勝率・得点期待値・得点価値
3回目	野球の一般原理②: 野球のセオリーの見直し
4回目	野球の一般原理③: リーグ戦と短期決戦
5回目	選手の評価①: 打撃・走塁
6回目	選手の評価②: 守備・投球
7回目	選手の評価③: 総合評価
8回目	成績の予測
9回目	近年のトレンド①: トラッキングデータの導入
10回目	近年のトレンド②: トラッキングデータがもたらしたもの
11回目	近年のトレンド③: Baseball Savant
12回目	野球データの利用
13回目	テスト
14回目	テスト講評
15回目	セイバーメトリクスのこれから
準備学習 時間外学習	特に時間外の学習は求めませんが、興味のある人は講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深めてください。
評価方法	・テスト ・出欠 ・授業中での質問への回答
受講生への メッセージ	魅力: 初めは一部の好事家の楽しむものだったセイバーメトリクスも、現代では野球の一翼を担うまでに成長を遂げています。これを理解することは、野球に関わる人にとっては必須の知識となりつつあります。また、野球以外の競技に関わる人にとっても、転用可能なアイデアが多く含まれています。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書: セイバーメトリクス入門 脱常識で野球を科学する, 蛭川皓平(著), 岡田友輔(監修), 水曜社 関連図書: [プロ野球でわかる!] はじめての統計学, 株式会社DELTA 佐藤 文彦/student (著), 岡田 友輔 (監修), 技術評論社</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ストレングス&コンディショニング2 Strength & Conditioning II	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員 実務経験	井手 宏法
コース	プロスポーツAIトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日3時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 講義と実技を織り交ぜながら、ストレングス&コンディショニングの応用と実践を学ぶ。 1年次の後期に学んだ内容をベースに多岐にわたる各体力要素の応用理論を理解し、各要素を高めるために必要な各種トレーニングを実践する。また自身が実践指導できる知識とスキルを身につける。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての競技に必要なS&Cの基礎理論と応用理論を理解し、各種トレーニング方法とその指導を身につける ・現場でS&Cコーチとして、様々な状況下でも指導・対応できる能力を身につける 							

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション/BIG3エクササイズの復習
2回目	BIG3測定/プレパレーションエクササイズの前提種目(グラウンディング・グラピング・プレーシング)を理解する
3回目	プレパレーションエクササイズの前提種目(グラウンディング・グラピング・プレーシング)を実践する
4回目	スクワットにおけるエラーとプログレッション/リグレッションを理解する
5回目	スクワットにおけるエラーの修正エクササイズを理解する
6回目	スクワットにおけるエラーの修正エクササイズを実践し指導できる
7回目	デッドリフト(RDL)におけるエラーとプログレッション/リグレッションを理解する
8回目	デッドリフト(RDL)におけるエラーの修正エクササイズを理解する
9回目	デッドリフト(RDL)におけるエラーの修正エクササイズを実践し指導できる
10回目	ベンチプレス(プッシュアップ)におけるエラーとプログレッション/リグレッションを理解する
11回目	ベンチプレス(プッシュアップ)におけるエラーの修正エクササイズを理解する
12回目	ベンチプレス(プッシュアップ)におけるエラーの修正エクササイズを実践し指導できる
13回目	BIG3再測定/総復習
14回目	テスト
15回目	振り返り/解説
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの基礎教科(機能解剖学や生理学など)の復習 ・授業内容の復習 ・トレーニングを実践する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト(BIG3測定/筆記テスト) ・授業態度 ・出席状況
受講生への メッセージ	1年次の後期に学んできたことや他の授業で同時に学んでいることがベースとなりますので、復習を忘れずに、日々成長する態度で授業に臨んでほしいと思います。後期に比べ実技を多く織り交ぜながら進めていきたいと考えていますので、自身が動ける身体作り、トレーニングにも精進してください。一方通行にならないよう、皆さんとディスカッションができる授業にしたいと思っています。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NSCAジャパン ストレングス&コンディショニング理論編 ・NSCAジャパン レジスタンスエクササイズ(プレパレーション) 	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツ科学科

科目名 (英)	テクニク	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	竹村 昌統
	Training Technique					実務経験	○
コース	プロスポーツAIトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

スポーツアナリストとしての活躍を夢見る学生たちにとってデータ分析や戦略・戦術能力を高めることは大変重要である。その中で選手のプレイや身体的・精神的コンディショニングの不良に気づき、アプローチする方法を知っていればスポーツトレーナー等の多職種連携を通してチームの勝利に貢献できることだろう！選手は身体のコンディショニング中は心身共にリラックスしている。その何気ない会話の中から好不調の原因に辿り着くことも起こり得る。つまり、コンディショニングを通して選手とコミュニケーションが図れることはアナリストとして大きな武器となるだろう。この授業では、基本的なストレッチやエクササイズにより筋コンディショニングの改善、種目毎に起こり得るような事例から具体的なコンディショニングテクニック法を学んで、現場活用できる形で授業進行をする。

※実務者経験：2003年4月～2008年3月まで大学チームスポーツ(ラクロス)のS&Cを担当。ウエイトトレーニングや試合前後のコンディショニングやケア、試合中のCPR、合宿や遠征への帯同等を務めた。2008年～2016年パーソナルトレーニングを専門として従事。2016年～主に老年疾患や内科系保有疾患患者へのリハビリを担当している。

【到達目標】

テクニクとは「特定の方法や手段のこと」であり、基本的/専門的な動作や行動に対しての具体的なアプローチ法と考えることが出来る。一方、スキルとは「学習によって得られた技術を意思決定や状況に合わせて判断する能力」である。

すなわち、この授業ではひとつひとつのテクニクの習得を目標に掲げて、最終的には現場で応用できるだけのスキルを習得することが目的である。

授業計画・内容	
1回目	ORT:授業進行と評価方法について (目標)ベアストレッチの技術を確認する
2回目	固有受容器の役割を知る (目標)抑制と促進について
3回目	固有受容器の役割を知る② (目標)ストレッチと筋促進法で筋バランスを整える～上位交差、下位交差～
4回目	固有受容器の役割を知る③ (目標)末梢神経アプローチ～橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺～
5回目	痛みのメカニズムについて知る (目標)国際疼痛学会の定義を理解できる
6回目	マニュアルレジスタンスによる効果を理解できる
7回目	走動作のメカニズム(矢状面)を理解し、障害予防をアドバイスできる
8回目	走動作のメカニズム(前額面)を理解し、障害予防をアドバイスできる
9回目	走動作改善のための体幹部から股関節の筋カトレーニングを指導できる
10回目	野球の投球動作(矢状面)を理解し、障害予防をアドバイスできる
11回目	野球の投球動作(前額面)を理解し、障害予防をアドバイスできる
12回目	野球の投球動作改善のための体幹部から上肢への筋カトレーニングを指導できる
13回目	試験対策
14回目	後期試験(ロールプレイング評価)
15回目	総評
準備学習 時間外学習	現場指導できる環境があれば最適である
評価方法	①必要出席日数(全出席者は本試験+10%加点) ②筆記試験40% ③ロールプレイング試験50%
受講生への メッセージ	単元ごとに繋がりがあがるため欠席することなく受講をする。やむなく欠席する場合は、予習を必ずして臨んで欲しい。
【使用教科書・参考書】	
・第3版スポーツ理学療法学～動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方～ ・第2版筋骨格系検査法 ・第2版慢性痛のサイエンス ・第5版末梢神経と筋のみかた 等 (MEDACAL VIEW)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ゼミ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	ゼミ担当講師
	Seminar					実務経験	
コース	プロスポーツAIトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
					2	曜日・時限	金曜日4限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討論する。

【到達目標】

- ・現場で実習を積み、経験を重ねるとともに課題を発見する
- ・課題の解決策を見つけ、実行し、評価を行う
- ・プレゼンテーション力を高める

授業計画・内容

1回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
2回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
3回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
4回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
5回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
6回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
7回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
8回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
9回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
10回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
11回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
12回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
13回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
14回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
15回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
準備学習 時間外学習	現場での活動、学校内での活動問わず、目的意識を持って臨んでいきましょう
評価方法	授業内評価 出席状況、授業内態度、提出物による100%総合評価
受講生への メッセージ	ゼミでの活動は、1年後社会に出た時に必ず役に立ちます。ぜひ、積極的に参加して多くのことを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

適宜、資料など配布

2024年度 授業概要

学 科：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	マーケティング Marketing	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	児玉のりこ
コース	スポーツマネジメントテクノロジー	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
					2	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日3限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

マーケティングとは何か、なぜマーケティングの知識が必要なのかを理解する。
演習を通じて、基礎知識をふまえて各種計画が立てられるようになり売上の収支構造を理解する。

実務者経験: テーマパーク物販/イベント企画立案・集客に従事。広告代理店にてプロモーション戦略・営業企画など様々な実務を経験。

【到達目標】

- 目標① 商圈・立地について理解し、出店計画を立てることができる。
- 目標② 商品化計画ができるようになる。
- 目標③ 店舗のプロモーション計画ができるようになる。
- 目標④ 売り場づくりに必要なディスプレイ計画ができるようになる。
- 目標⑤ 売上収支を踏まえた出店計画ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	マーケティングとは何かについて説明することができる
2回目	メーカーと小売業のマーケティングの違いを説明することができる
3回目	商圈について理解し、説明することができる
4回目	商圈、立地を鑑み、出店計画を立てることができる
5回目	マーケティングの視点に立ち、商品化計画ができるようになる
6回目	プロモーションの概要と種類について説明することができる
7回目	プロモーション計画を立てることができる
8回目	【中間テスト】出店計画・商品化計画・プロモーション計画に関するテスト
9回目	売り場づくりに必要なディスプレイ手法を理解し、説明することができる①
10回目	売り場づくりに必要なディスプレイ手法を理解し、説明することができる②
11回目	商品の価格設定について理解し、説明することができる
12回目	小売店の利益構造を知り、売上収支を計算することができる
13回目	売上収支を踏まえた出店計画を立てることができる
14回目	【期末テスト】売上収支を踏まえた出店計画、ディスプレイ計画/プロモーション販売に関するテスト
15回目	前期まとめ/テスト振り返り
準備学習 時間外学習	皆さんの好きなお店について考えてください。 「なぜ好きなのか」「なぜもう一度行きたいのか」をお客様目線に立ち、お店に行きかけや理由を考えてみましょう。
評価方法	授業内に実施する演習実践30% 中間テスト30% 期末テスト40%
受講生への メッセージ	お店づくりや出店には「マーケティング」の視点が必要です。 お客様視点を持つことで「人気店の理由」が分かる様になると思います。 集客できるお店づくりや商品・イベントプロモーション、出店計画を楽しく学んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	販売管理論 入門

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	WEBマーケティング	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	福田健治
	Web Marketing					実務経験	○
コース	スポーツマネジメントテクノロジー	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日2限目

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

1. ウェブ解析と基本的な指標 2. 事業戦略とマーケティング解析 3. デジタル化戦略と計画立案 4. ウェブ解析の設計
5. インプレッションの解析 6. エンゲージメントと間接効果 7. ウェブサイトの解析 8. ウェブ解析のレポート

実務経験: ウェブマーケティング実績23年年目、GAなどのアクセス解析ツールを活用し、企業の業務改善・売上向上などに従事。
ウェブ解析士の資格取得レベルの知識と共に、実際に企業に必要とされているウェブマーケティングの考え方やスキルに関する授業を実施いたします。

【到達目標】

ウェブマーケティング、ウェブ解析に関する以下の基礎知識を修得、共通の用語認識の基に、営業・制作・開発・社内ウェブマスター業務等の遂行・業務効率化を可能にすることを旨とします。

授業計画・内容	
1回目	ウェブ解析の重要性とウェブ解析士の仕事について説明ができる
2回目	ウェブ解析と基本的な指標(サイト表示の仕組みとアクセスログについて説明ができる)
3回目	ウェブ解析と基本的な指標(オウンドメディアの指標について説明ができる)
4回目	事業戦略とマーケティング解析について説明ができる
5回目	デジタル化戦略と計画立案について説明ができる
6回目	ウェブ解析の設計(解析の設計)について説明ができる
7回目	ウェブ解析の設計(コンバージョンの設計)について説明ができる
8回目	インプレッションの解析について説明ができる
9回目	エンゲージメントと間接効果(ソーシャルメディアのエンゲージメント)について説明ができる
10回目	エンゲージメントと間接効果(広告の接効果)について説明ができる
11回目	ウェブサイトの解析(オウンドメディアの解析)について説明ができる
12回目	ウェブサイトの解析(インタラクション解析)について説明ができる
13回目	ウェブ解析のレポートについて説明ができる
14回目	修了テスト
15回目	修了テスト解説
準備学習 時間外学習	ウェブ解析士認定合格に向け、予習と復習をしっかりと行いましょう。
評価方法	修了テスト70% 出席点20点 平常点10点
受講生への メッセージ	アクセス解析をはじめとしたウェブ解析データを活用し、デジタルマーケティングを通して事業の成果を導く人材、それがウェブ解析士です。ウェブ解析士は、ウェブ解析スキルを身につけ、データを読み取り、正しい判断ができるスキルを修得することを目標としています。
【使用教科書・教材・参考書】	
2024ウェブ解析士認定試験テキスト(一般社団法人ウェブ解析士協会)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	映像制作2	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員 実務経験	今林 佑太 ○
	Video Production II	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー				4	曜日・時限	木曜日4・5限目
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<ul style="list-style-type: none"> ・映像制作を行うための制作オペレーション(企画、演出、絵コンテの作成、カメラワークの作り方) ・映像制作を行うために必要な撮影知識・技術の習得(一眼カメラ、付属する機材の扱い方) ・Premiere Pro、After Effectsを使用した映像素材の編集とエンコード 実務経験: 中小企業を中心として、広告映像を制作を手がける							
【到達目標】							
自分で作成した企画を基に一眼カメラを使用してクオリティ高く訴求力のある動画を計画通りに制作することができるようになる 他者が撮影した素材を編集で演出を加えて、クオリティの高い映像を制作することができるようになる							
授業計画・内容							
1回目	1年次の復習(Premiere Pro)の操作方法、基本知識、簡単なオリジナルドラマの編集						
2回目	インタビュー映像の撮影方法、マルチカメラの編集方法						
3回目	座学(解像度、フレームレートについて) / スローモーション映像の撮影方法						
4回目	ブラシレスジンバルを使っでのテスト撮影(一眼カメラ) & 編集						
5回目	シネマティックBロールの制作①—企画(個人制作)						
6回目	シネマティックBロールの制作①—撮影						
7回目	シネマティックBロールの制作①—撮影 / 編集						
8回目	シネマティックBロールの制作①—編集						
9回目	シネマティックBロールの制作①—試写						
10回目	After Effectsの基本知識、簡単なアニメーション方法 テキストアニメーションの作り方						
11回目	After Effects イージーエーズを使ったアニメーション作成 リンクしたファイルのモーション						
12回目	After Effects loopoutなどのエクスペリションを使用したインフォグラフィックスの作成						
13回目	After Effectsでのトラック処理、オブジェクト追従の方法						
14回目	After Effects アニメーション付きの名刺動画の作成①						
15回目	After Effects アニメーション付きの名刺動画の作成—試写						
準備学習 時間外学習	①自分のスマートフォンで出来事を撮影する(横動画を中心に) ②広告映像(TV-CMやTV番組)などから演出やカメラワークを意識して視聴する						
評価方法	授業内で制作する成果物によって評価します						
受講生への メッセージ	動画制作をするにあたって様々なことを考えないといけないため、頭を使うかと思いますが同じようにPCやカメラなどの精密機器もたくさん使います 故障や紛失があると制作自体に影響してくるため機材は丁寧に扱うように心がけてください。 あとは自分が作っていて楽しいものはもちろん、視聴者が見て心が揺さぶられるような映像を作りたいと意欲があれば必ず作れるようになると思います。 一緒にがんばりましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・イヤホン、もしくはヘッドフォン(有線モデルの方が望ましい) ・個人のHDD(個人が所有するスマートフォンに合ったデータ転送用のケーブル(Lightning、USB-Cケーブル)) 							

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	イベント	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	森田 康裕
	Event Planning					実務経験	
コース	スポーツマネジメントテクノロジー	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日3限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>イベントを実行するための基礎的な知識(企画、準備、実施の流れなど)や管理方法を学びます。 また業界で求められるその他の知識、人材に関しても学びつつ、ビジネスへ活かすための適応力を鍛え、 絶えず変化する環境、雇用、多様化するグローバル社会に適応し、成功するために必要な能力の育成に取り組みます。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格を取得する ・イベントの基本的な構成の把握、提案力、実行力を身に付ける ・イベントで必要となる機材の知識及び基本操作を身に付ける ・マーケティングやビジネス環境について自分なりに分析、評価、提案ができる 							

授業計画・内容	
1回目	本講義の目的と概要説明、現状理解度の確認
2回目	イベントに関する知識と技術、求められる役割を説明できる
3回目	イベントを構成する組織と開催意義、ターゲット分析と集客を説明できる
4回目	企画運営の流れ、イベント資料制作について説明できる
5回目	現場で働く上で必要な知識と行動、実際に使用する機材を説明できる
6回目	企画運営の流れ、イベント資料制作について説明できる
7回目	企画書制作実習
8回目	放映権ビジネスと観戦者の理解について説明できる
9回目	マーケティングと顧客ロイヤルティを説明できる
10回目	現状と今後の願望(ディスカッション)
11回目	プレゼン用企画書制作実習
12回目	企画書プレゼン
13回目	イベント開催へ向けた課題制作のアドバイス及び実習
14回目	イベント開催へ向けた課題制作のアドバイス及び実習
15回目	課題プレゼン発表共有、討議
準備学習 時間外学習	準備: イベントスキームのたまかな把握 時間外学習: 授業内容の復習及び業界調査、資格試験勉強
評価方法	①取組姿勢 出席20% ②企画書内容 40% ③プレゼン内容(期末テスト) 40%
受講生への メッセージ	基礎やアイデアの発想法を学びイベント分野の理解度を上げる講義です。 ディスカッションなどで自身の考えを言語化し、実習で実践力を鍛える内容を予定しています。
【使用教科書・教材・参考書】	
イベント検定 公式テキスト(一般社団法人 日本イベント産業振興会)	

2024年度 授業概要

学 科 : スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名 (英)	ゼミ Seminar	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員 実務経験	ゼミ担当講師
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日4限目
コース	スポーツマネジメントテクノロジー	<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 企業課題に対してPDCAサイクルを回し、実践力を修得していく。また、課題に対して活動を通じて、対策・実施策を講じるための方法を討論する。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場で実習を積み、経験を重ねるとともに課題を発見する 課題の解決策を見つけ、実行し、評価を行う プレゼンテーション力を高める 							

授業計画・内容	
1回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
2回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
3回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
4回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
5回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
6回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
7回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
8回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
9回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
10回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
11回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
12回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
13回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
14回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
15回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
準備学習 時間外学習	現場での活動、学校内での活動問わず、目的意識を持って臨んでいきましょう
評価方法	授業内評価 出席状況、授業内態度、提出物による100%総合評価
受講生への メッセージ	ゼミでの活動は、1年後社会に出た時に必ず役に立ちます。ぜひ、積極的に参加して多くのことを学んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
適宜、資料など配布	